



令和5年5月31日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部  
総務広報課長

### 宮崎大学のトピックス（5月分）の配信について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

敬具

① 発信元

宮崎大学企画総務部総務広報課

TEL : 0985-58-7114 FAX : 0985-58-2886

## 宮崎大学最近のトピックス（令和5年5月分）

1. 「米国オンライン集中英語プログラム」修了式を開催
2. 「日・バングラデシュ戦略的パートナーシップに関する共同声明」に宮崎大学が主導する事業への謝意が示されました
3. G7 農相会合学生ボランティアによる学長表敬
4. 本学から2人の名誉教授が令和5年春の叙勲「瑞宝中綬章」を受章！！
5. 附属小学校にて「いとし子の集い」を行いました
6. 宮崎県デジタル人財育成コンソーシアムを設立
7. 農学部1年生向けに高校教員の仕事の魅力を紹介
8. みやざき未来研究所 第2回「スタートアップ実践者」を実施
9. ベテラン教師が教師の卵に情熱を注入 ～第2回ひなた教師セミナーを実施～
10. 農学工学総合研究科3年の上野さんがForbes “30 UNDER 30 ASIA” に選出！
11. 宮崎大学・宮崎銀行・テレビ宮崎が共同記者会見を実施  
～第4回宮崎・学生ビジネスプランコンテスト～
12. 記者会見を実施：中学生からの理系進路選択支援に力を入れます
13. 清花アテナ男女共同参画推進室の活動報告が掲載されています！
14. 元宮崎県教育長が熱く語る！ 公開講座『「幸せへのひとづくり」実践論 2023』開催中

### 1. 「米国オンライン集中英語プログラム」修了式を開催

令和5年4月24日（月）、宮崎大学は、学生の海外留学・研修を推進し、多様な経験を積むことで更なる成長を促す機会を創出するためのプログラム「米国オンライン集中英語プログラム」

（American Intensive Virtual English Program）修了式を開催しました。本プログラムは米国国務省の助成金を受け、2023年2月より実施されたものです。

式には、鮫島学長、新地理事、村上副学長等が出席しました。また、本学の協定校であるインディアナ・ユニバーシティ・オブ・ペンシルベニア（IUP）のプログラム担当教員よりビデオレターでの挨拶がありました。鮫島学長の挨拶及び修了証授与の後、12名の修了生が研修の成果に関して英語によるプレゼンテーションを行いました。

本プログラムでは、IUPが提供する8週間のオンライン集中英語プログラムを、学内選考に合格した学生に無料で提供しました。本プログラムでは、実際の留学に必要なアカデミック英語を学ぶのみならず、IUPの学生チューターとの国際交流が行われたことにもその特徴があります。



### 2. 「日・バングラデシュ戦略的パートナーシップに関する共同声明」に宮崎大学が主導する事業への謝意が示されました

令和5年4月26日（水）、岸田文雄内閣総理大臣と公式実務訪問賓客として訪日中のシェイク・ハシナ・バングラデシュ人民共和国首相（H.E. Sheikh Hasina, Prime Minister of the People's Republic of Bangladesh）との首脳会談が行われ、その後の共同記者発表において、日・バングラデシュ戦略的パートナーシップに関する共同声明が発出され、「Ⅱ. 相互利益及び地域

反映のための経済協力の深化 20」において、宮崎大学が国際協力機構（JICA）や宮崎市役所などと連携して主導する高度 ICT 人材育成プログラム「宮崎-バングラデシュ・モデル」について言及がなされ、これらへの支援に対する謝意が盛り込まれました。

正式な二国間声明の中で、地方での一事業が言及されることは希なことです。宮崎大学では、2017年から2020年にかけて、JICAと連携してバングラデシュにおける日本市場向け高度 ICT 人材育成事業（「B-JET プログラム」）を実施し、主に日本語・日本文化教育に



おいて協力。B-JET を修了したバングラデシュ人 ICT 技術者 186 名が日本へ就職し、うち 53 名が宮崎大学への留学を経て宮崎で就職した実績があります。

この現地人材育成事業「B-JET プログラム」と宮崎大学への留学・インターンシップを組み合わせた産官学連携高度 ICT 人材導入事業が「宮崎-バングラデシュ・モデル」であり、内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が自治体に向けて発行した資料「地方創生に資する地方公共団体の外国人材受入関連施策等について」（2022年3月16日付）においても、クローズアップされるなど、全国的にも注目されている事業となっています。

### 3. G7 農相会合学生ボランティアによる学長表敬

令和5年4月27日（木）、宮崎市のシーガイアコンベンションセンターで開催されていた先進7カ国首脳会合（G7 サミット）宮崎農相会合（4月22日・23日開催）にボランティアとして参加していた宮崎大学生が学長に活動報告を行いました。

宮崎大学からは20名（外国人留学生5名を含む）が学生ボランティアとしてサミットの運営を支え、会合会場や宮崎空港等における歓送迎、展示ブースや歓迎レセプション等における、英語による簡単な通訳・説明などに携わりました。

地域資源創成学部3年の広瀬梨奈（ひろせ りな）さんは、「23年ぶりに宮崎でサミットが開催され、地元へ貢献できるまたとない機会」と考え、ボランティアとしての参加を決意。大学に入って積み重ねた英語学習の成果を活かして、レモンケーキや青島せんべいなどの宮崎産のスイーツやお菓子を中心に来客に説明を加えながら楽しんでもらったとのこと。広瀬さんからは、「自分とは全く立場の違う色んな方と接することで、色んな発見があった。これからもボランティア活動などを通じて、新しい世界を知っていきたい」と感想をいただきました。

また、タイ出身の PONGPIYAPAIBOON SORAWICH（ポンピヤパイブーン ソラウィット）さん（大学院農工学総合研究科博士課程1年）は、会場でのお出迎えや宮崎空港での見送りを担当したほか、宮崎産の食べ物や焼酎などをPRするブースのボランティアを担当。対応した多くが日本人関係者だったというが、「みやぎの焼酎や宮崎フードアワード2020を受賞したようかん『一人ひとり』などを紹介し、県外から来た日本人にみやぎをPRできた」と、満足した様子でした。



#### 4. 本学から2人の名誉教授が令和5年春の叙勲「瑞宝中綬章」を受章！！

令和5年4月29日（土）、日本国政府は叙勲・褒章などの受章者を発表し、永田雅輝（ナガタ マサテル）名誉教授と小沼新（コヌマ アラタ）名誉教授が瑞宝中綬章を受章しました。



内閣府では、春秋叙勲として、年2回（4月29日と11月3日）、各界の功労者に対して叙勲を授与しており、瑞宝中綬章は、公務等に長年にわたり従事し、成績を上げた者に贈られる勲章です。

永田名誉教授は、平成20年3月に退職されるまで、長きにわたり宮崎大学農学部で教員として、農業機械学分野において本学の教育・研究に大きく貢献したことが評価されました。

小沼名誉教授は、平成19年3月に退職されるまで、長きにわたり宮崎大学教育学部（教育文化学部）の教員として、政治学分野における教育・研究に大きく貢献したことが評価されました。

#### 5. 附属小学校にて「いとし子の集い」を行いました

令和5年5月11日（木）、宮崎大学教育学部附属小学校にて「いとし子の集い」が執り行われ、附属小学校の全児童約600人と教職員並びにご遺族の方が参加しました。



これは、78年前の1945年5月11日、集団下校中に空襲に遭い、当時の附属小学校に通っていた12名と宮崎師範女子部附属国民学校に通っていた4名の児童（生徒）が犠牲となり、その命日に合わせて毎年行われています。

集いでは、児童を代表して6年生の弓削美咲（ゆげ みさき）さんが、「昨日まで一緒に過ごしていた仲間が今日はいなくなることがある。生きて帰ってくることは当たり前ではない。一つしかない命を大切にしていきたい」と、力強く述べ、当時小学4年生で同級生が犠牲となった田崎嘉男（たさき よしお）さん（87歳）が、空襲当日の命から逃がった時の状況や終戦後の小学校の様子などを語り、「今は平和でとても恵まれた環境で学ぶことができる。今の生活に感謝して欲しい」と、児童にメッセージを送りました。

児童は最後に、「附属小学校いとし子教材化プロジェクト」により作詞・作曲がなされた「黄色い花が咲く頃は」を斉唱。正門付近にある慰霊碑に移動し、献花を行った後、附

属小学校が独自に作成した教材（いのちと平和学習教材「いとし子への誓い」）を用いてクラス別に平和学習が行われました。

宮崎大学教育学部附属小学校では、過去の悲惨な歴史を繰り返すことのないよう、未来を担う子ども達に対する平和教育に今後も力を入れていくこととしています。

#### 6. 宮崎県デジタル人材育成コンソーシアムを設立

令和5年5月12日（金）、宮崎大学、旭化成株式会社、株式会社宮崎銀行、株式会社デンサン、イー・アンド・エム株式会社は、合同で記者会見を開き、宮崎県デジタル人材育成コンソーシアムを設立しました。



これは、宮崎県のデジタル化の充実・発展を図り、持続的な発展及び地域創生に貢献すること

を目的としていて、宮崎大学の鮫島浩学長、旭化成株式会社代表取締役社長の工藤幸四郎氏、株式会社宮崎銀行取締役頭取の杉田浩二氏、株式会社デンサン代表取締役社長の松方健二氏、イー・アンド・エム株式会社代表取締役会長の岩城範彦氏が協定書に署名を行いました。

締結式では、宮崎大学工学部の田村教授が、今後の想定される取り組みやプロジェクトの概要を説明し、続いて鮫島浩学長が挨拶のなかで「長所をそれぞれ持ち合って欠点を補い、そして新たな企業、新たなモノを作り出すという意味でも、このコンソーシアムを作るという意義は大きい」と、今回のコンソーシアム設立の意義を語りました。

宮崎大学では、データサイエンス教育に力を入れており、本学のプログラム「宮崎大学データサイエンス・AI教育プログラム」が文部科学省の「認定教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されています。また、文部科学省・大学教育再生戦略推進費「地域活性化人材育成事業～SPARC～」にも採択されていて、これらの教育プログラム（事業）と、これまで培ってきたノウハウを、県内外の企業や自治体、大学などと連携して水平展開しながら、地域社会に必要とされる人材の育成に努めていくこととしています。



## 7. 農学部1年生向けに高校教員の仕事の魅力を紹介

令和5年5月15日(月)、1年生向け基礎教育科目である「大学教育入門セミナー」において、佐々木未応氏(宮崎県教育庁教職員課 人材育成担当副主幹)を講師に迎え、「先生の仕事の魅力」と題した教職ガイダンスを実施し、農学部植物生産環境科学科1年生が受講しました。

佐々木氏は、令和3年度まで宮崎県立宮崎南高等学校で教頭を務めた後、令和4年度より宮崎県教育庁において教育職員免許に係る業務を担われております。佐々木氏は本ガイダンスにおいて、宮崎県の学校の現況や様々なキャリアデザインに応じた働き方ができる教師の魅力を紹介。「教師は子どもとともに学んで感動し、未来を創る仕事である」と語り、教師という職業をぜひ将来の選択肢の一つとして考えていただきたいと学生に訴えかけました。

宮崎県教育庁による農学部での1年生向け教職ガイダンスは本年度で3年目となり、当ガイダンスを契機として教員を志望するようになって教職科目を本格的に受講している農学部学生もいます。農学部では、社会から求められる人材を輩出できるように組織的なキャリア教育を展開しており、教員養成課程を持つ学科に所属する全ての1年生が佐々木氏の講話を7月までに聴講する予定となっています。



## 8. みやざき未来研究所 第2回「スタートアップ実践者」を実施

令和5年5月16日(火)に「スタートアップ実践者」として本講座のコーディネーターである脇氏のほかに、株式会社スペースマーケット代表取締役CEOの重松大輔氏をお迎えして参加者と「地域×スタートアップ」について意見交換をしました。

重松氏は、自身の大学時代、起業するきっかけや視点などのお話の中で、日本が起業し成功しやすい国であること『小さな一歩、小さな“商い”を始めてみてほしい』『お金を作ることは当たり前のもので、いいサービスが生まれること』とスタートアップを後押ししていただきました。参加者は、空き家×病院などアイデアを発表し積極的に意見交換をしました。



## 9. ベテラン教師が教師の卵に情熱を注入 ～第2回ひなた教師セミナーを実施～

令和5年5月17日(水)、宮崎県内で小学校教員を目指す宮崎大学の学生が参加する「育成プログラム」の一つである「ひなた教師セミナー」が行われ、1・2年生合計30名の学生が受講しました。

2回目となった今回は、教員経験19年のベテランである甲斐淳朗主査(宮崎県教職員課人材育成担当)が講師を務め、「宮崎県の小学校教員の魅力を理解しよう!」というテーマで、自らの実践経験をもとに、「授業はみんなでつくる!」「授業は真剣勝負!」「授業はドラマ以上のドラマ」という構成で熱のこもった話を展開。授業開きや卒業式、男女の仲を円滑にするための方法論から、手作りのお面をかぶって歴史上の人物になりきって行う授業など、生徒の興味を引きつける授業実践例に受講した学生も驚いた様子でした。

受講した学生からは、「小学校教師の魅力を改めて知ることができた」、「教員になりたいという気持ちがさらに高まった」などの声が寄せられ、セミナーの最後に、甲斐主査から「みなさんには小学校教師の資質が大いにある。愉しく、真剣に教師を目指して頑張ってください」とエールが送られました。



## 10. 農工学総合研究科3年の上野さんがForbes「30 UNDER 30 ASIA」に選出!

2023年5月18日(木)、英字雑誌「Forbes ASIA」(出版社:Forbes Media Asia Pte Ltd)は、2023年で第8回目となる「30 UNDER 30 ASIA」を発表し、宮崎大学発ベンチャー企業である株式会社Smolt代表取締役社長の上野賢さん(宮崎大学大学院農工学総合研究科3年)が、「INDUSTRY, MANUFACTURING & ENERGY」部門で選出されました。

「30 UNDER 30 ASIA」は、世界にポジティブな変化をもたらし、イノベーションを推進しているアジア太平洋地域の30歳未満の若手起業家やアーティスト、アスリートらを対象に、テクノロジーや金融、ヘルスケア、アート、エンタメおよびスポーツなどの10部門からそれぞれ30名の受賞者を選出しています。2023年は、KポップのLe SserafimとNewJeansやタイの俳優のメータウィン・オーパイヤムカジョーン、韓国のコンテンツクリエイターのWonjeong Seoらが選ばれるなど、日本でも有名な若手が選出されており、今回上野さんが選出されることは宮崎大学の学生では初めてのことであり、快挙です。



上野さんが代表取締役社長を務める株式会社 Smolt が生産する「つきみくら®」は、ANA 国際線ファーストクラス機内食でも提供されるなど、全国的にも注目を集めています。「つきみくら®」とは、Smolt が生産する桜鱒（さくらます）からとれる黄金のいくらです。桜鱒とは冷たい淡水の河川に住む山女（やまめ）が海や湖に降り大型化したものの呼称で、日本固有の鮭の仲間であり、自然界では数が少なく、幻の魚とも言われています。

Smolt では、希少な純国産のサーモンの資源量が年々減少している中で、自然に負荷をかけない山と海を往復する独自の養殖技術をベースに優れた家系の選抜を行い、日本固有種のサーモン（鮭）である桜鱒と、その魚卵であるいくらを完全養殖により生産しています。これにより、天然資源に頼ることなく、海の豊かさを守り、おいしい日本の魚食文化を 100 年先も楽しめる未来の実現を目指して、STI for SDGs アワードの科学技術振興機構理事長賞を受賞したこともあります。

## 11. 宮崎大学・宮崎銀行・テレビ宮崎が共同記者会見を実施

### ～第 4 回宮崎・学生ビジネスプランコンテスト～

2023 年 5 月 18 日（木）、宮崎大学は、株式会社宮崎銀行（杉田浩二取締役頭取）と株式会社テレビ宮崎（寺村明之代表取締役社長）と合同で記者会見を行い、「第 4 回宮崎・学生ビジネスプランコンテスト」の開催日時並びに詳細を発表しました。



「宮崎・学生ビジネスプランコンテスト」は、2017 年から実施している「宮崎大学ビジネスプランコンテスト」を、県内学生の更なる起業家教育支援の充実を目指して 2020 年度から宮崎県内の高等教育機関に在籍する学生にも参加資格を広げました。多数の企業から協賛・協力を得て実施していて、大学が主催するビジネスプランコンテストとしては全国最大級の規模となっています。

2017 年度の第 1 回宮崎大学ビジネスプランコンテストに出場した学生（2022 年度時点で博士課程学生）が代表取締役を務める大学発ベンチャー企業「株式会社 Smolt」は、独自に開発した商品である「つきみくら」が ANA ファーストクラスで提供されたほか、「STI for SDGs」アワードにおいて「科学技術振興機構理事長賞」を受賞するなど、コンテスト参加までの過程を通して行われる、ビジネスプラン作成講座やプレゼンテーション力向上講座といった学生の想像力やチャレンジ精神、自ら考え解決する能力を引き出す「アントレプレナーシップ教育プログラム」が地域課題の解決などにも活かされています。

2017 年度の第 1 回宮崎大学ビジネスプランコンテストに出場した学生（2022 年度時点で博士課程学生）が代表取締役を務める大学発ベンチャー企業「株式会社 Smolt」は、独自に開発した商品である「つきみくら」が ANA ファーストクラスで提供されたほか、「STI for SDGs」アワードにおいて「科学技術振興機構理事長賞」を受賞するなど、コンテスト参加までの過程を通して行われる、ビジネスプラン作成講座やプレゼンテーション力向上講座といった学生の想像力やチャレンジ精神、自ら考え解決する能力を引き出す「アントレプレナーシップ教育プログラム」が地域課題の解決などにも活かされています。

## 12. 記者会見を実施：中学生からの理系進路選択支援に力を入れます

令和 5 年 5 月 19 日（金）、宮崎大学工学部は記者会見を行い、令和 7 年度入学選抜（学校推薦型選抜）に女子枠を導入すること、今年度から力を入れていく中高生の理系進路選択支援に向けた取り組みについて記者会見を行いました。



まず、会見冒頭で鈴木学部長が挨拶を行い、大島副学部長が令和 7 年度入学選抜（令和 6 年度実施）において女子枠を新設することから、その制度の詳細について説明。

続いて、西岡副学部長が、2010 年度から実施している「女子高生のためのサイエンス体験講座」などをはじめとする女子生徒向けの支援実績等を踏まえながら、令和 5 年度から新たに始める女子中学生を含めたプログラム概要を説明しました。

令和 5 年度からは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）事業である「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」において、宮崎大学工学部が主体となって申請した「集まれ！宮崎アマテラスガールズ～サイエンスの岩戸を開けてみよう～」が採択されています。

宮崎大学では、柔軟な改革に積極的に取り組み、工学系人材となることを志す女子生徒の受け入れ・人材育成を加速化させることとしていて、今後も地域や時代のニーズに合わせた人材育成ができるよう努めてまいります。

## 13. 清花アテナ男女共同参画推進室の活動報告が掲載されています！

九州大学男女共同参画推進室が発行する「ポリモルフィア～Polymorfia」Vol. 8（令和 4 年度）において、本学の清花アテナ男女共同参画推進室の活動報告が掲載されています。



清花アテナ男女共同参画推進室では、2010 年度から県内の女子高校生を対象に、ロールモデルとのふれあいや実験を通じ、理系への進路選択や「研究者」という職業について知る機会を提供する取組みとして「女子高生のためのサイエンス体験講座 in 宮崎大学」を実施しています。

この「体験講座」は、これまでに 100 以上のプログラムを提供し、参加者は延べ 1,000 人を超えています。年度によっては、体験講座参加者の約 4 分の 1 が本学の医・工・農学部へ入学していることもわかっており、「体験講座」でのプログラム参加や教員・学生との交流

などが、本学への進学意欲を高めている可能性があると考えられます。

この活動報告では、「体験講座」のこれまでの歩みと展望について詳細に記載されていますのでぜひご一読ください♪

#### 14. 元宮崎県教育長が熱く語る！ 公開講座『「幸せへのひとづくり」実践論 2023』開催中

令和5年5月19日（金）から、宮崎大学地域デザイン棟（木花キャンパス）を会場にして、宮崎大学公開講座『「幸せへのひとづくり」実践論 2023』を対面形式とオンライン形式を交えて実施しています。

本講座は、高校教員（理科）として約20年を経験した後、宮崎県教育庁（学校教育課・学校政策課）や高等学校長、宮崎県教育委員会教育次長や教育長を歴任後も、各



方で精力的に人材育成にかかる活動を行っている飛田洋氏が講師を務めています。

第2回目となった5月25日（木）は、「協議しながらグループワークでSDGsの心を学ぶ！」と題して、グループディスカッションを実施。講座冒頭のアイスブレイクでは、なぜSDGsの概念が必要かを問い直してもらう目的で、ある絶滅危惧種の写真を受講生全員の背中に貼り、「肉食ですか？」「私は卵で増えますか？」「宮崎で見ることができますか？」「陸上で生活しますか？」といった感じで、抽象的な質問を周りの人に聞きながら、自分が一体何者（何の絶滅危惧種）かを問い詰めていきました。